

平成23年度第5回地域公共交通会議 会議録要旨

■日時	平成24年3月23日（金）午前10時00分～午前11時30分
■場所	北2条仮庁舎 庁議室
■出席者	協議会：塚本会長、高橋副会長、山村委員、東雲委員、佐藤委員、 広川委員、山内委員、多田委員、松浦委員、鈴木委員、戸田委員、 森委員、山口委員、大谷委員、渡辺委員代理（大西次長）、 宮腰委員代理（森谷主査）、渡部委員、井南委員、 藤澤委員代理（高畑次長）、小原委員 北海道開発技術センター：伊地知氏 事務局：浅野目地域振興室長、橋本地域交通対策担当主幹、 水野地域交通担当係長、

開会

●浅野目室長

本日は、年度末で大変お忙しい中、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

只今から、平成23年度第5回北見市地域公共交通会議を開催させていただきます。開催にあたりまして、塚本会長から挨拶をいただきます。

●塚本会長

皆様こんにちは。

年度末、大変お忙しい中、このようにお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

皆さんもご存知かとは思いますが、甲子園が21日からスタートしました。石巻工業高校の阿部主将が素晴らしい選手宣誓をして、日本国内に感動を与えたという、あのような姿を目の当たりにして、我々もいろんな形で、この日本国の復興に向けて考えていかなければならないのだということを痛切に感じたところであります。

また、昨日、女満別高校が40年振りの参加で、我々この地域代表として応援をしていたのですが、1回目の攻防で浮き足立っていたためか6対0で負けてしまいました。しかし、後半はきちとした試合を行っておりました。

選手にとっては非常にいい経験だったと思いますし、これからのこの地域の代表として、そして、これから選手が大きく育っていくという面においては期待を込めていきたいと思っております。

一方では、震災から1年を過ぎて、その中でも復興の足取りが遅いながらも少しずつ見えてきているという部分では、これから我々も北見市を挙げて、いろんな形で協力をしていかなければならない。そういった時には皆様方にもいろんな側面からご尽力を賜ることを心からお願いを申し上げておきたいと思っております。

今日は、第5回目の公共交通会議でございまして、今日、このレジュメにございますように、今までご議論いただいております公共交通計画の案が出来上がってまいりました。

先日、テレビの中で、函館市内の町内会がバスを借り上げて、函館市とのデマンド交通を行うというニュースが流れておりました。

やはり、これからは地域公共交通がない地域にお住まいの方たちが、いろんな考え方をもちながら、「その地域によって足を守っていく」といった「自分たちでやる」という事例があの場合で出てきたのだということを、つぶさに感じておりました。

この北見の地域におきましても、そういう部分では「新たな展開・模索ができればありがたい」と感じたところでもあります。

今日は、公共交通計画がある程度出来上がってまいりました。いよいよこの計画に基づきまして、この後は、更に具体化に進めていかなければならない、そういう状況になってきているところでもございまして、どうか皆様におかれましては、様々な立場からいろいろとご意見をいただきながら、この地域における公共交通・市民の足をなんとかできる、そういう対策を講じていければと思っておりますので、どうぞよろしくお願いを申し上げたいと思います。

今日、この公共交通計画の案、そして、そのパブリックコメントにつきましてご報告を申し上げますので、ご審議賜りますようお願いを申し上げます。

冒頭、私の方からご挨拶を申し上げます。どうぞよろしくお願いをいたします。

●浅野目室長

ありがとうございます。それでは、これからの進行につきましては、塚本会長にお願いをしたいと思います。

よろしく申し上げます。

●塚本会長

それでは、会議の成立について、事務局から報告をいただきたいと思います。

●橋本主幹

おはようございます。事務局の橋本です。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の出席人数は21名中20名の出席になります。

北見市地域公共交通会議 設置要綱 第6条 第2項の規定に基づきまして、半数以上の出席がございまして、本日の会議は成立いたしますことをご報告申し上げます。

尚、網走バス株式会社総務次長の佐藤委員が欠席の報告を受けております。また、オホーツク総合振興局網走建設管理部北見出張所所長の渡辺委員が欠席のため、代理で大西次長が出席をされておられまして、同じく総合振興局地域政策部地域政策課長の宮腰委員が欠席のため代理で森谷主査が、また、市の福祉部長の藤澤委員が欠席のため代理で高畑次長が出席されていることをご報告申し上げます。以上でございます。

協議事項：(1)パブリックコメントの結果について (2)北見市地域公共交通計画(案)について

●塚本会長

それでは、会議が成立したことを宣言させていただきましたので、4番目のレジュメ

に従いまして、協議事項に入ってまいりますが、本日は公共交通計画、事前に皆様にお配りをしてありましたが、皆さんお持ちでしょうか？

ない方は言っていただければ事務局の方からお渡ししたいと思いますが、お持ちですね。

公共交通計画について、レジュメにございますように、パブリックコメントの結果、そして公共交通計画の案について、説明をさせていただきたいと思います。

事務局お願いいたします。

●橋本主幹

それでは座って説明をさせていただきます。

これより計画策定委託業者であります北海道開発技術センター、通称DECと申しますが、そこから説明をしていただくこととなります。

その前に、前回の交通会議から今までの経過等について、私からご報告をさせていただきたいと思います。

前回の交通会議において承認いただきました概要版について、市民からの意見募集（通称：パブリックコメント）を2月6日～24日までの約3週間、市民の方々に対し意見等を募りました。

結果としまして、1名の方から2件のご意見があったところでございます。その間、その件を含めて交通計画につきまして、有識者でもあり、交通会議の副会長の北見工大の高橋教授とDECさんとの協議をさせていただきました。

その中で、今回改めて交通計画案と概要版の案としてお示しをさせていただいたところでもあります。

詳細につきましてはDECさんからご説明いただきたいと思いますと思いますが、委員の皆様方のご意見等を賜り、交通計画及び概要版を決定させていただきたいと考えておりますので、よろしくお願いをしたいと思います。

それでは説明の方をDECさんお願いいたします。

●伊地知氏（北海道開発技術センター（DEC））

・・・ 「北見市地域公共交通計画」及び「同計画概要版」により説明 ・・・

●塚本会長

ありがとうございました。

1つの方向性が示された公共交通計画です。

どうですか、皆さん。計画の概要を基に今お聞きになったと思いますが、何かご意見、または「こういったところをこうして欲しい」というものがあれば、承りたいと思いますが。

●高橋副会長

感想を含めて、少しお話させていただきたいと思います。

先ほど、こういう類の会議の最初の挨拶は、大体、決まりきった挨拶しかないのですが、塚本会長は素晴らしい挨拶をいただきましたので、それに少し付け加えさせていただいて、お話をさせていただきたいと思います。お話しは3つあります。

1つは、今回示された公共交通計画の案というのは、多分、どちらかというところ、普通、計画というのは「コレをやる」「アレをやる」ということで、かなり具体的なものが上がってくるのだらうというふうに思っていたら、今回は、基本理念とか基本方針というようなことで、これを進めていく方向性を示したということですので、今までの普通提示される計画とは、若干異なるものかなと思っています。

しかし、今回、特に踏み込んでお話をいただいたのは、グランドデザイン。これはゾーン分けです。都市計画で言うところの都市計画区域とそうではないところの線引きを含めて、そういう意味でのところをやっていますので、これは、かなり公共交通をこれから具体的なものを計画していくのに、大きな方向性を示しているのではないかと思います。これに関していけば、今回の公共交通計画案の一番大きなポイントになるのではないかと思います。

その時に、どうしても先ほどの選手宣誓ではないのですが、私も聴いていてすごく感動したのですが、「感動」と言葉としては最近どこでも用いられるので、少し薄くなってしまいます。何故かというところ、すごくメッセージ性がありました。言葉の力というのはすごいなと思いました。ですから、今回は、基本理念・基本方針というのを、「豊かな社会」ということで掲げましたので、これを皆さんも含めて、いろんなところで「こういう方針なのだ」ということを広めていただきたいと思います。

要するに、この言葉の力というか、「なんとしてもこの方向に進んでいくのだ」という、強いメッセージ性を持たないと、この計画は失敗するなと思っています。

2つ目ですが、特に公共交通ということに関して、今までの概念をある意味大きく変えていただきたいと思います。

今までの公共交通というのは、不特定多数の方が利用するのが公共交通でした。ですから、ラインを引けば、誰が乗ってくるか分からないです。「沢山乗ってもらって」ということだったのですが、今はもうそういう状況ではないということは明らかです。

今は「不特定多数」から「特定少数」の人に向けての公共交通ということですので、今回のデータを含めて、かなりターゲットは絞られているというのが分かりましたので、その人に対してどういうサービスを提供するのかということが、具体的に決まってくるのではないかと思います。

その時に、先ほどの函館のバスの話もそうなのですが、要するに、自分でできることは自分でやる。防災の時も最近、自助・共助・公助という話をされるのですが、これは公共交通にとっても全く同じで、「自分たちでできること」、「町内会でできること」、「更にはこういう大きな公共としてサポートすること」というようなことで、その考え方によると、防災の考え方がすんなりいくのではないかと、それだけ危機的な状況にあるということもそうなのですが、やはり公共交通に対しても、自助・共助・公助の考え方を導入して、なんとかこれを保持していかなければならないなと思っています。

3つ目ですが、先ほどちょっとお話があったかどうか聞き忘れたのですが、PDCAサイクルということでございます。

今回の計画は、まだ理念・方針しかありませんが、それを提示して、それに基づいて具体的なことをやって、失敗することの方が基本的に多いのですが、そういうことがあった時には、もう一度考え直すということです。ですから、1回やって「はい、おしまい」ということではなくて、常にPDCAサイクルを回しながら計画を推進していく。そうではないと、先ほど「負のスパイラル」という、マイカー依存になって、公共交通のサービスレベルが下がって、その代わりにまたマイカー依存になっていくという、この「負のスパイラル」を、いかにして違うスパイラルに持っていくかというのは、これは総力戦でやるしかなくて、その時、一番大事なのは、利用者の気持ち含めて、行動変異をどうやって起こさせていくのかということだと思います。それはやはり、常にチェックしながら、「ダメだったら違うことをやる」、「良かったら更に良いことをやる」というようなことで、PDCAサイクルを回しながらやるということが、この公共交通計画で重要なのだろうと思います。

どちらにしても、皆様のご協力が必要なので、いろんなところで、いろんな形で、是非、この公共交通の具体的なことはスケジュール的にいいますと、来年度以降になるかもしれませんが、推進していく必要があるのではないかと思います。以上です。

●塚本会長

ありがとうございます。

高橋副会長から、専門的な立場での公共交通とは、「今後、どうしていくか」というお話をいただきましたけれども、非常に、この公共交通というのは、我々としても、今、先生がおっしゃられたように「ラインを引いてくれれば乗るのに」ということなのですが、我々もラインがあっても乗らないという部分もありますから、特に、この報告の中では、夏場と冬場の利用実態が大きく変わるというところもありますし、そういう部分では、我々としても、今後、その公共交通に対する在りようというの、変わらなければならぬだろうと思います。

先ほどのアンケート調査の中で、40歳以上でこの先マイカーを利用することが減るという回答が40%近くあったということですから、これは非常に重要な話なのだろうと思いますから、この部分も含めて地域での在り方を考えなければならぬと思います。

1つ聞いてもいいですか。

39ページの駅利用者のアンケートの中で、「最近バスで来ても駅利用とのアクセスが繋がらない」という言い方なのですが、これは簡単に言いますと「都市計画上、駅のすぐそばにバス停があった方が良い」という、そういう言い方なのでしょうか。格段離れているからそれを利用しないということなのでしょうか。

●伊地知氏（DEC）

使える路線、あるいはバス停というのがあるにも関わらず、残念ながらバスが使われていない。駅に来るのにバスが使われていない。

●塚本会長

駅で降りられた方がバスに乗って行かれるということは、逆でないということですね。

●伊地知氏（DEC）

それもそうですね。同じように少ないです。

●塚本会長

この、都市計画交通マスタープランの下に、この公共交通計画がぶら下がるという話は、これはこういう考え方で良かったのですか。そこのところだけ確認させていただきたかったのですが。

●橋本主幹

平成22年に北見市の都市交通マスタープランができて、その中に地域公共交通に関するものがあります。そこは、具体的なものがまだ提示されておられませんので、その部分に対して、この公共交通計画というものが存在をして、具体的な行動を取っていくということで、私どもとしては、そういう風に順を追ってやっていくのだということを示していきたいということです。

●塚本会長

お分かりになりましたか。

そういう市の中には総合計画というものがあまして、これがどちらかというと北見市における憲法というか、マスタープランなのです。それにいろんな計画がぶら下がっていきまして、その都市交通マスタープランが20年にできているのですけれども、その中に、こういう公共交通計画の1つの細分化された中でぶら下がっていき、ひとつひとつ総体的に、北見市のまちづくりを進めていくのだという考え方の中の1つだということだけご理解いただきたいと思います。

あと、皆さんいかがですか？

●戸田委員

利用者の部分で、このアンケート調査だけで次の部分に進んでいくという形になると、かなり利用者の意見というか、私としては、地域ごとに留辺蘂自治区なら、そのバスの利用している方の考え方を、公民館などに集めて、そこからこの会議の中で意見を出してくれば、もっともっと利用者のニーズにあった路線だとか、時間帯だとかというものができるのではないかと思います。ただアンケートだけでやっていると、失敗する可能性が大ではないかと思います。

●橋本主幹

今回は、こういう形の計画ということで、先ほど高橋副会長の方からもお話があったのですが、今後については、今、まさに戸田委員がおっしゃったような、地域に入り込んで、地域の方々の意見を取り入れながらやっていかないと、うまくいかないと思いま

す。

アンケートだけでなく私も聞くのですが、「バスは必要ですか？」と聞いたときに、「必要です」、「もし入れたら乗りますか？」と言ったら「乗る」ということが、よく言われるのですが、実際に入れたら乗らないということが非常に多いということですから、直接住民の方とお話をしながら、どういう形が一番いいのかを検討していきたいと思います。

●戸田委員

まち協主体の、留辺蘂自治区の公共交通の在り方というか、そういうものを主体的にやって、利用者の意見をきちんと把握した方が、より正確なものができるのではないかと
いう考え方なのです。

●塚本会長

わかりました。

今後そういう可能性はあるのですね？

そういうことをやっていくという考え方が今ありますので、そこはご理解いただきたい
と思います。

●多田委員

2、3点お伺いしたいのですが、64ページなのですが、ここで乗数の性別が、女性が圧倒的に多くなっておりますよね。更に、その下の高齢者が6割～7割を占めている。次のページの利用目的が何かということになったら、私は通院かと思ったら、通院は意外と10%前後で少ないのです。それで、「帰宅」というのがありますよね。この「帰宅」というのはどういうことなのでしょう。通勤でもない、通院でもない。要するにその辺をぶらぶら歩いて、帰るときに利用するということなのでしょう。

●伊地知氏（DEC）

「帰宅」は、一般的に全ての目的からとにかくご自宅に帰るときなので、通勤で行った時の帰りも「帰宅」に入りますし、通院したあと自宅に帰るのも「帰宅」に入るので
す。

●多田委員

そうすると、通勤の中にはその数字が入ってこないのですか？

●伊地知氏（DEC）

病院に行く時には「通院目的」の中に入ってきます。病院に行く方が帰るときは「帰宅」の中に入ってしまうんです。

●多田委員

パブリックコメントがあったのが1人ということに驚いたのですが、40ページの表

の丸印の上から6番目です。

いろいろやると、まちなかを魅力的なものにしようとする店が出始めるというようなことが書いてあります。我々こうして集まって交通体系をやっています。このバスの過疎化みたいな部分のことや、まちなかの活性をいろいろ考えてやっていると思うのです。肝心のまちなかの人なのです。「自分たちはどうしよう」だとか、「魅力的なまちにしよう」だとか、そういう努力をしているような雰囲気、少なくとも私には見られないのです。なきしもあらずやったとしても、まちの人は人任せですし、「バスが無くなる」とか「バスが無くなったらどうするのですか」とかもっと働きかけた方がよいと思います。

北見市は、ポストフル、ヨーカドー、コーチャンフォーなど、いろいろなお店があり、人が集まってくるのです。むしろ恵まれていると思っています。

そういう中で、北見市の中心市街地がのんびり構えていいのかと思います。「もっと努力すべきだ」と私は思います。

少しこの会議に相応しくない内容だとは思いますが、そういう働きかけというのは何かあるのですか。

●塚本会長

それはありますね。

行政としても、当然、今、このまちのなかを変えていこうと、都市再生事業等を行いながら、それはハードの部分は行政がやっていきますが、最終的にそれに魂を入れていくソフトの部分というのは、多田委員が言われましたように、個々のお店の皆さんがそういう様に頑張っていて、人を寄せていただくような、そういうソフト事業の展開というのは大切ですから、今、言われたことはいろんな方がお思いでしょうから、そこにこのハードとソフトに横串をきちんと入れて、北見市が一体として取り組んでいくという姿勢を見せることによって、間違いなくこのまちが良くなっていくという結果になります。

それは今までもやってきておりますし、これからも強く言っていくというのは、これは当然のことだと思っています。

それぞれのご事情がありますから、一概にうまくいかない部分もあるのでしょうけれども、そういう努力をしていただかなくてはならない。

●多田委員

39ページの上から2つ目の枠の「利用する路線の満足度」の中で、もっとも不満が大きい項目は乗り継ぎなのです。これは具体的にどことどここの乗り継ぎが不満なのか分かれば、そこが良ければ少し解消されるのではないかと思うのです。

●伊地知氏（DEC）

この調査結果の中から、乗り継ぎに不満を持っている方が普段何の路線を使っているかまでは分かるのですが、どれに乗りたいかまでは追えないのです。

間接的に、普段乗っている路線の中から、住民アンケートの方でも、「あそこに乗り

継ぎが良ければ行きたいのに」という施設がいくつか代表的なところで、いくつかは拾えるので、そういうものを照らし合わせながら見るという方法はあるかと思うのです。

●多田委員

これは想像なのですが、利用者に高齢者や学生が多いですよ。乗り継ぎに不満を持っているということは、どこかの病院に行く時、どこかの学校に通学する時、そこで乗り継ぎがうまくいっていないのではないかと思うのです。

これは北見バスさんのいろんな問題で実現不可能かもしれませんが、そういうところに、なるべく寄りながら、例えば今回の夕陽ヶ丘線、ああいうような路線があれば、すごくいいなと思うのですよね。

●塚本会長

意見いただきありがとうございます。

いずれにいたしましても、こういう意見があって、北見市内に網羅されている公共交通が更に良くなっていく、そのために我々はどういうことをやっていきますか、ということを考えていかななくてはならない。

そして、今、高橋副会長の方からありましたように、これはあくまでも1つの考え方をまとめた案で、これをPDCAサイクルに載せ、これから実行に移していき、「検証もしてきちんとやっていくのですよ」という1つの土台ができたということですから、そういう意味では、今、多田委員から言われたこと、戸田委員から言われたこともきちんとこれからは実践をして、そして、この嵩上げをはかっていくという考え方でございます。

北見バスさんの山村委員いかがですか。事業者として意見があればお願いします。

●山村委員

住民の皆さんのアンケート結果を見まして、バスを利用している方で、月数回利用者が生活に関係するもので、これが15%しかないということに驚きを感じました。

要は、85%の方がバスを必要としていないのかという心配があります。

今回、こういういろんな調査をしていただいて、私も事業者では分からない部分も出てきていますので、今回、方向性が計画でできましたので、今後、具体的に地域によっていろんな計画を作る段階で、そういった意見などを参考にしながら、お客さんが利用しやすいものを作っていければいいなと感じました。

●塚本会長

夕陽ヶ丘線について、先ほど多田委員がおっしゃいましたが、結構、人が乗っているのですね。

私が朝歩いてくる時に、あのラインといつもすれ違うのですが、いろんな人が乗っていますし、土日あたりがいろいろと利用が高いような感じもするのです。

まさに、今、言われましたように、拠点から拠点へ繋いだ路線ができることによって、利用実態が高まっていくということもありますから、これは1つの将来のヒントになる

のではないかと思います。

いろいろご意見ありました。

その他何か委員の皆様から発言があれば、承りたいと思うのですが、

・・・ 発言なし ・・・

はい、ありがとうございます。

それでは、こういう交通計画をまとめさせていただきました。今はまだ案の状況ですので、この会議として、これの考え方を1つ整理させていただいて、承認をいただいた上で案を取りたいと思うのですが、よろしいでしょうか。

・・・ 「はい」との発言 ・・・

ありがとうございます。

それでは、ここで地域公共計画を設定させていただきたいと思います。ありがとうございました。

その他：次回の開催について

●塚本会長

続きまして、その他、次回の開催日程等についてよろしいですか。

●橋本主幹

それでは、本日、承認いただきましたこの「交通計画」になります。これについては、私ども事務局としても、何日間かありましたので、再度見ましたところ、何点か文言整理をしなければならないところが多少ありますので、内容的には何も変わらないところでありますから、この辺は私どもの方で整理をさせていただいて、DECさんと協議をさせていただきながら、公共交通計画ということで冊子としてまとめさせていただきます。

まとめさせていただいた段階で、皆様に郵送をさせていただくということで、ご理解をいただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

また、来年度の予定は、先ほど戸田委員の方からお話がありましたが、実際に地域の住民の皆さんの意見をお聞きしながら、新たな交通システム等についても考えていかなければならない。

まして、来年度、試験運行ということも視野に入れて考えておりますので、これについては交通会議設置要綱 第8条 幹事会というものがあります。そこに基づいて対象地域・関係団体の委員の方々にも係わっていただいて、ご相談・協議をさせていただきたいと思いますので、その際はよろしく願いしたいと思います。

新年度、第1回目の交通会議の日程なのですが、これについても、今お話した通り、まず地域にいろんな形で入っていかなくてはならないということもありますので、具体

的な検討する地域等が定まった時点で、改めて召集をさせていただきたいと思っておりますので、その辺はご理解をいただきたい。時期的には今の段階ではちょっと申し上げられないという状況ですので、ご理解を賜りたいと思います。

以上でございます。

●塚本会長

幹事会を開いて、その中で、24年度でモデル的に実施する場所等を決めた上で、交通会議に諮っていくということでもいいですか。

●橋本主幹

はい。いいです。

●塚本会長

幹事会の方でお任せをいただくという考え方でよろしいですか。

はい。ありがとうございます。

それでは、なければ事務局から申し上げましたように、この提案を今いただきましたが、字句等の訂正を行いながら、最終的な製本をするという形になりますので、そこはご理解をいただきたいと思います。

その他、こういう機会でございますので、何か皆様からあればお話いただきたいと思いますがよろしいですか。

・・・ 発言なし ・・・

それでは会議を閉じさせていただきますが、この公共交通会議におきまして、この計画ができあがりました。

いろいろとご意見いただきましたけれども、今後はこれを机の上に置いておくだけではなく、実行性の高いものに、いよいよこれからスタートするチャンスをいただきました。そういう意味では、これをベースにアクションを起こしていくという考え方でございますので、どうか委員の皆様方には、ご協力賜りますようお願い申し上げまして、第5回の地域公共会議を閉じさせていただきます。

どうもありがとうございました。